

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒も教職員も生き生きと学び続ける学校

1. 総ての生徒の進路希望の実現を図る
2. 部活動や多彩な学校行事を通じて、たくましく、しなやかにグローバル社会を生き抜く力を育む
3. 国際教養科を設置する高等学校として、英語教育・国際理解教育の充実を図る

2 中期的目標

1 英語教育、国際理解教育の一層の充実

- (1) 「使える英語プロジェクト」事業の成果を継承し、英語教育の充実を図る
 - ア. 英語指導法のさらなる改善と研究成果の発信に努め、英語検定の準 2 級以上の合格をめざす学校全体での取組を進める
 - イ. 各種の行事を英語学習の動機付けに活用すると共に、資格取得のキャリアアップを支援する
 - (2) さまざまな国際理解教育の機会づくり
 - ア. 小中・他校との連携を視野に入れた英語・国際理解関連行事の推進
 - イ. 海外姉妹校との交流機会を深めると共に、グローバル社会を意識した生徒を育てる
 - ウ. 国際教養科の取組を学校の特色とし、新たなチャレンジをする機運の醸成を図る
- ※「学校教育自己診断」の「英語教育・国際理解教育」(H25 : 80%、H26 : 80%)で、H29 年度まで満足度 80%台維持を目標とする

2 魅力ある授業による、生徒の学力向上

- (1) 学習の動機付けとなるキャリア教育を充実する
 - ア. 「総合的な学習の時間」等を活用したキャリア教育を通して、すべての生徒の進路希望実現をめざす
 - イ. 三年間を見通した「花園キャリアプラン」に基づき、早い時期から進路を意識させ、自ら進路を切り拓く力をつける
 - ウ. 高大連携や卒業生の講話等により明確な目標意識を育成すると共に自学自習の習慣を定着させる
 - (2) 魅力ある授業づくりと生徒満足度の向上
 - ア. 授業アンケートの結果を踏まえた改善を進め、研修・研究授業等を実施し、組織的な取組を行う
 - イ. 双方向の授業をこころがけ、「わかる授業」「生徒の力をのばす授業」を実践する
 - (3) 学習環境の改善
 - ア. 挨拶の励行と遅刻防止を推進し、学習に集中する姿勢を強化する
 - イ. 校内美化を推進し、学習を気持ちよく始めるための清潔、快適な学習環境を実現する
- ※「学校教育自己診断」の「家庭での学習習慣」(H25 : 32%、H26 : 35%)で、H29 年度に確立度 38%。「授業の工夫」(H25 : 66%、H26 : 70%)で、H29 年度に満足度 70%代の維持を目標とする。また、学校教育自己診断の「進路意識の確立」(H25 : 65%、H26 : 67%)で、対前年比 3%向上、「総合満足度」(H25 : 85%、H26 : 86%)で、86%維持を目標とすると共に、「学校経営推進事業(H25~H27)」アンケートにより H27 年度に第一希望進路実現率を 80%とする。

3 行事や部活動等の多様な活動の充実

- (1) 部活動の活性化
 - ア. 学校生活に軸足を置き、コミュニケーション力、調整力を養い、良好な人間関係を構築する力を育む
 - イ. 学校見学会等を含めた中学生や地域との交流の充実
 - (2) 生徒会活動の活性化
 - ア. 学校行事の活性化を通じて生徒の自尊感情を高める
 - イ. ボランティア活動や国際交流、地域との交流を通じて豊かな心を育てる
- ※「学校教育自己診断」の「生徒会活動」(H25 : 68%、H26 : 63%)で、H29 年度に積極的参加度 70%。また、「人間関係」(H25 : 82%、H26 : 80%)で、H29 年度までに肯定感 80%台持続を目標とする

4 学校力の向上

- (1) 組織で課題に取り組む体制づくり
 - ア. 運営委員会を中心に、課題の全体化、情報の共有、活発な議論を推進し、教職員一人ひとりが学校経営参画意識を持つ
 - (2) 広報活動の充実
 - ア. 学校の魅力を発信する Web ページの充実と、「花園 PRESS」の活動など、特色ある広報活動を実施する
- ※「学校教育自己診断」の「教職員の情報共有」を H29 年度までに 60% (H26 : 29%)、「中学生への情報発信」を H29 年度までに全学年 60% (H26 : 1 年 45%、2 年 57%、3 年 68%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・肯定感で、「花園高校への満足度」生徒 92%、保護者 95%、教職員 99% 「国際交流・国際理解教育」生徒 91%、保護者 94%、教職員 95%とこの二項目で三者とも高い。特に生徒の満足度が昨年度より 10%あがっている。「学校行事への積極的参加」については、保護者 95%、教職員 93%とベスト 3 までに入っているのに比べて、生徒 76%と少し低いことが気になる。例年の傾向なので、生徒の状況把握を進めたい。</p> <p>・一番の課題は、肯定感が最低の「家庭学習の習慣」で、生徒 43%、保護者 44%とともに唯一 50%を切っており、ここ数年本校の最大の課題のひとつである。</p> <p>・今年度中期的目標に掲げた学校力の向上に関する項目で、教職員の肯定感が「情報の共有」「危機管理体制」では上がったが、「情報共有」「分掌等の機能」では、依然として 50%を切っている状態なので、一層の改善をめざす。</p>	<p>・第 1 回 (5 月 28 日) 平成 27 年度学校経営計画説明 新しく学校像を考えていく時代が来ている。改革のスピードも必要。研修等で教員の意見をくみ上げることも学校力の向上には必要等の意見をいただいた。</p> <p>・第 2 回 (11 月 18 日) 学校経営計画進捗状況の報告 授業見学 授業見学の感想から、授業の「場」作りに工夫があること、伸ばし甲斐のある生徒なので授業の持って行き方で差が出るというアドバイス、生徒とのコミュニケーションができていたという感想をいただいた。</p> <p>・第 3 回 (2 月 10 日) ・一般的に、家庭学習の習慣が定着していないのは、SNS の影響が大である。家より、自習室、図書館などが勉強しやすくなっている。</p> <p>・潜在力を持っている生徒なので、手をかければそれだけ伸びてくる。授業規律も含めてコンセンサスを取って、歩調を合わせて取組を継続してほしい。</p> <p>・3 年生は受験のことでもよく相談にのってもらい、先生と生徒の距離が近い学校。</p> <p>・卒業生として母校がどんどん良くなっていると感じて嬉しく思う。授業に ICT を取り入れられたり、先生方の努力もすごいと感じた。</p>

本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 英語教育、国際理解教育の一層の充実	(1) 更なる英語・国際理解教育 ア. 英語力を生かしたキャリア支援 イ. さまざまな国際理解の機会づくり ウ. 国際交流や校種間連携 エ. 英語力の向上に向けた指導力アップ	ア. 英語力を生かしたキャリア支援 ・英検対策講座等によるキャリア意識の育成 ・準2級以上英検受験の促進(H26:422人)と合格者の増加(H26:132人) イ. さまざまな国際理解教育の機会づくり ・多様な異文化理解行事の実施 ・留学や国際交流活動参加への支援 ・一般教養、自己表現のためのプレゼン力の強化 ウ. 国際交流と校種間連携の促進 ・姉妹校等との交流機会づくり ・外国修学旅行生や留学生の受入れ ・地域の中学校・大学等と連携した英語力の成果発表の充実 エ. 英語指導力の向上11 ・授業改善のための研究協議の実施 ・特色ある英語指導の実践	ア. 英語力を生かしたキャリア支援 ・英検対策講座等(10回) ・英検(準2級以上受験400人台持、合格者+3%) イ. さまざまな国際理解教育の機会づくり ・留学生を招いた国際理解行事の校内ネット配信など企画充実(全学年、配信数) ・留学情報等の紹介や国際交流情報の提供(各学年掲示板の活用) ・スピーチ大会やプレゼン等の教科学習成果発表(2回) ウ. 校種間連携 ・姉妹校等とのWeb交流(2回・40人) ・姉妹校相互交流や外国高校生を受入れ等(20人) ・「花園イングリッシュチャレンジ」への参加者数(5%増)(H25, 26:11人) エ. 英語指導力の向上 ・校内研究協議週間の設定(2回) ・特色ある英語指導の研究授業の実施(+5%)	ア英語力を生かしたキャリア支援◎ 英語科教員による指導に加えて、英検対策・TOEIC講座計11回実施。TOEIC IP受験者18名。英検準2級以上の受験者470名(48名増)、合格者154名(22名増) イ国際理解教育 ◎ ・1・2年で国際理解行事を実施。掲示板の活用、例年行う国際教養科のスピーチコンテストに加え、普通科の暗唱発表や、語学研修旅行の成果を英語でプレゼン、インドネシア派遣生徒によるプレゼン等新たな企画に取組んだ。 ウ校種間連携 ◎ web交流4回(160名)姉妹校受け入れ(12名)インドネシアからの訪問受け入れ3回(61名)計73名 イングリッシュチャレンジ参加者19名(25%増) エ英語指導力の向上 ○ 研究協議週間は互見授業に変更。NETとのTT視察1回。ICTを利用した授業等の研究授業実施。授業について教科で議論継続中。
2 魅力ある授業による、生徒の学力向上	(1) 学習活動の充実と満足度の向上 ア. 多様な進路実現に向けたキャリア教育の充実 イ. 魅力ある授業による生徒満足度の向上 ウ. 学習環境の整備	ア. キャリア教育の充実 ・「花園キャリアプラン」に基づく学年の円滑な接続 ・卒業後の進路がイメージできる講演会や大学見学等の実施 ・ICT機器を活用したキャリア教育の促進 ・DVDやPC等を活用した教材の紹介や、自習室の利用促進による学習習慣の定着 イ. 魅力ある授業・生徒満足度の向上 ・「授業アンケート」の結果の活用 ・アクティブラーニングの研修等も含めた授業力向上の組織的取組 ウ. 学習環境の整備 ・遅刻防止週間を実施し、遅刻総数の削減に向けた自覚を育成 ・校内美化の一層の推進	ア. キャリア教育の充実 ・学校教育自己診断「進路意識の確立」69%(H26:66%) ・大学見学・体験交流の機会(2回) ・ICT機器の活用の導入(全学年) ・自習室の利用者2,100人(H26比+5%) イ. 魅力ある授業・生徒満足度の向上 ・授業アンケートの活用 ・研修、研究授業、互見授業の実施(3回) ・学校教育自己診断「授業の工夫」72%(H26:70%)、「総合満足度」85%維持 ウ. 学習環境の整備 ・遅刻防止週間(2回)、遅刻数の減少(前年比-5%)(H26:4,373) ・生徒自身の点検評価(各学期1回)	アキャリア教育の充実○ 「進路意識の確立」77%◎大学見学・体験交流の機会(6回)◎ICT機器を大学見学前の事前学習でのプレゼン等で活用。○ 自習室の利用2023人。3年担任団による日曜祝日開館◎ イ魅力ある授業・生徒満足度○ 結果は個人で活用。アクティブラーニング研修1回、研究授業3回、互見授業週間(期間を長く設定し2回)○ ○「授業の工夫」80%、「総合満足度」92%◎ ウ学習環境の整備○ 遅刻防止週間2回、遅刻数4,148 校内美化 生徒の点検各学期1回
3 行事や部活動等の多様な活動の充実	(1) 部活動の活性化と生徒会活動の充実 ア. 部活動の活性化 イ. 生徒会活動の充実	ア. 部活動の活性化 ・体験入部期間の改善などを通して入部率の向上を図る。また活動内容を校内で共有する。 ・学校見学会を含めた中学生等との部活動交流の充実 イ. 生徒会活動の充実 ・HRの充実による参加意識の強化 ・地域との連携強化	ア. 部活動の活性化 ・1年生の入部率(68%維持) ・中学生参加数(200人維持) ・クラブ掲示板の新設と活用 イ. 生徒会活動の充実 ・自己診断「行事への積極的参加」65%(H26:63%) ・地域との連携活動(年間2回)	ア部活動の活性化 ○ 1年生の入部率68.2%維持○中学生の参加数260名◎掲示板の活用○ イ生徒会活動の充実◎ 「行事への積極的参加」76% 地域との連携活動:東大阪環境フェスティバル・健康まつり・地域の高齢者センター・自治会の祭に複数のクラブが参加。執行部中学生に太鼓指導、運動部の地元中学校との交流(5部)
4 学校力の向上	(1) 組織で課題に取り組む体制づくり ア. 学校経営参画意識の向上 (2) 広報活動の充実 ア. 特色ある広報活動の展開	ア. 学校経営参画意識の向上 ・運営委員会を中心に、課題の全体化、情報の共有を図り、PTやWGを駆使し、迅速な課題の解決を図る ア. 特色ある広報活動の展開 ・学校の魅力を発信する「花園PRESS」による広報の強化 ・ブログによる生徒会活動、部活動の情報発信	ア. 学校教育自己診断「職員間の情報共有」40%(H26:29%)「教職員の意見反映」65%維持 ア. 「花園PRESS」の活動評価度(76%台維持) イ. ブログ更新(各学期1回)	(1) ア学校経営参画意識の向上△ 「情報共有」40%○さらなる改善必要 「意見反映」61%△個々の課題に対して、アンケートや、グループでの意見交換会を実施。分掌・学年・教科での意見の集約・議論、情報の共有等、改善点多数あり、原因・向上方法をさらに検討中。 (2) ア特色ある広報活動◎ ア活動評価81%◎ イブログ更新各学期1回以上○ 広報活動への教員の参加増。